



臨時総会

3月28日(金)「ホテルスエヒロ」において、美唄歯科医師会臨時総会が開催されました。議長(小生)指名の後、平成15年度の事業計画案並びに一般会計収支予算の議案が承認されました。

その内容は長らく続いた旅行会を取りやめ、例会を削減し懇親会も簡素にする。事務方の会計部門の外注委託、伝達手段としてのIT化をさらに充実させ、郵送配布との重複をさけることなどや事務部門を強化する活動方針であります。

また、本年は役員改選期にあたり、選考委員会のもと宝崎錠二会長の留任となりました。新会長としての挨拶で現体制のそのままの移行を表明されました。但し、以前より決定していた理事の1名の増員には学校保健、学校歯科担当に平和隆会員、監事に宝崎幸子会員が退き村上孝男会員がそれぞれ就任となりました。

新会員として美唄労災病院歯科に勤務されている久恒泰宏氏が勤務会員として入会し、また、長らく当会事務を支えてこられた桜田昭美さんと菅原千秋さんの退職を承認しました。代わりに新しく近藤理恵さんが手伝ってくれることになりましたが、桜田さんには引き続き事務相談役として、今後ともご協力いただけるのは、誠に心強い限りであります。

ところで4ヶ月ぶりに怪我により入院されていた雨田先生が元気に快復され、歯科国保組合に関しご説明して下さいました。

前山先生が欠けた幾分寂しい懇親会ではありましたが、久恒先生と近藤女史の加入という新しい風も吹き、和気あいあいの雰囲気のもと、懇親会が執り行われました。(小森英世記)

沼明けが待ちどおしい宮島沼

3月29日(土)市内のホテルにおいて、国の天然記念物マガンの国内最大の寄留地、宮島沼(美唄市西美唄)の保全と活用を進める市民組織の設立総会が開かれ、会の名称が「宮島沼の会」と決った。宮島沼が昨年11月ラムサール条約登録湿地に指定されたのを機に、美唄市が設立を呼びかけていた。沼と人間の共生のため、市民レベルの取組みを始める。設立総会には40人が出席し、宮島沼の現地学習や環境学習会の実施、年4回の会報発行などの新年度事業計画を決めるとともに、会長に鳥類学の専門家である藤巻裕蔵(帯広畜産大名誉教授、美唄在住)を選出した。

美唄には同名の市民団体(草野貞弘代表)があるが、同代表は、「旧団体は休眠しており新団体が名称を引継いでほしい」と語っている。

～野鳥観察はここで！宮島沼センター開業～

市内西美唄の宮島沼観察センターが3月29日オープンした。まだ雪に覆われているが、オオハクチョウやコハクチョウが寄留しているほか沼明けを探りに来るマガンの姿を見ることができる。

マガンは3月初めごろからウトナイ湖周辺に寄留し、宮島沼に毎日偵察隊が飛来、最近の雨で雪が急速に解けており、4月中旬までには沼明けが期待される。沼をおとずれる市民も増えている。同センターは5月7日まで午前8時～午後6時まで開館、入館無料。昨年ピーク時期はGW頃で水鳥数約7万5千を数えた。シベリアへの旅立ちは、5月3日～5日の間の確率が最も高いと思われるが？

(雨田 実記)